

## 二宮金次郎の報徳精神と現代の経営

作家 三戸岡道夫

- \*600もの農村を復興させた
- \*小田原から桜町領（栃木）へ
- \*旗本に年貢の引き下げを認めさせる
- \*勤勞、分度、推讓の経営哲学
- \*明治天皇が感動して全国に広がる
- \*現代の二宮金次郎―伊那食品
- \*グラミン銀行のマイクロ融資
- \*南足柄市の「花の金次郎」
- \*八重洲BCと二宮金次郎の銅像
- \*二宮金次郎に中国が関心



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は二宮金次郎の研究者で、たくさん関連書を書いておられる三戸岡道夫さんにおいていただきました。三戸岡さんというのはペンネームで、本名は大貫満雄さんです。協和銀行で長く活躍され副頭取までお務めの後、作家へ転身されました。

二宮尊徳というと、小学校の校庭にあった薪を背負った石像をすぐ思い出しますが、戦前の修身の教科書にもいっぱい出ていたはずですね。今は教育の中では出てこないのでしょうか。経済倶楽部の若い女性から「修身って、終身刑の終身ですか」と言われましたけれども。（笑）

いずれにしても、二宮尊徳といえど一生涯懸命本を読んで勉強して頑張った人というイメージ

ばかり浮かびがちですけれども、実際には小田原から栃木、福島の前馬などで農村経済再建に大活躍した人でして、今日は彼の生涯とその報徳精神が現代の経営にどう生かされているかというお話をさせていただきます。それでは三戸岡さんよろしくお願いいたします。（拍手）

三戸岡 皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました三戸岡でございます。よろしくお願いたします。

二宮金次郎といえますと、今お話があったように薪を背負った少年が有名です。その銅像も戦後はなくなってきたわけですけれども、彼の人生を、少年の部分で象徴したら、ああいうデザインになったということだと思えます。70歳まで生きたわけですが、幕末、関東地方